



2023年12月6日(水) 12時20分から約1時間、当協会のアニマルセラピストの大村敬師範が、東洋英和女学院大学の学生相談室ワークショップで、「人の健康に動物が意識的に使われた歴史となぜ動物が人の健康に効くのか」というテーマでアニマルセラピーの講演をいたしました。

講演は、私達はなぜペットを飼うのか、なぜペットに癒されるのかという問いかけからスタートし、事前に参加希望の学生の皆様から頂いた質問にもお答えしながら、アニマルセラピーがなぜ人の健康に効くのかについての先人の取組や調査・研究の歴史を振り返り、現代的アニマルセラピーの活動は、精神科医・臨床心理などの専門家が行うだけではなく、愛犬家が日頃感じている癒しを、犬が好きでも犬を飼えない高齢者の介護施設の入居者や病院の入院患者のところへ訪問し、笑顔や癒しをお届けしようということから広まったこと、そして、昔は犬には人を癒す不思議な力があると漠然と思われていたことが、現代では科学的・医学的研究により、人と犬がふれあうと種を超えて幸せホルモンのオキシトシンが分泌し、その効果により親子のような愛着の絆が生まれ、お互いが癒され、健康と幸せをもたらすことが示されていること、その上でアニマルセラピーの効果を上げ、安全に、動物福祉に配慮して、楽しく実施するには、当協会のようなアニマルセラピストの認定とセラピー犬の適性評価が重要であることなどを当協会のアニマルセラピストとセラピー犬が活動している写真を交えて、説明させていただきました。

また、アニマルセラピーはどのような健康効果があるのかを事例を交えて紹介し、アニマルセラピーはセラピー犬のスキンシップによる手当てとアニマルセラピストの人間的な心のぬくもりによる共同のセラピーで、体が健やかに（身体的効果）、心が幸せに（心理的効果）、そしてお互いが喜びあえるつながりが築かれる（社会的効果）活動であるということも言及させていただきました。

最後に、アニマルセラピーの先進国アメリカのセラピー犬が日常生活の様々な場面で活躍している事例を紹介し、日本のアニマルセラピーの更なる普及に向けて、当協会も尽力していく所存であること、そしてこのような講演の機会を設けていただいたことに感謝するとともに、学生の皆様にも、この活動への更なる温かいお力添えをお願いして、講演を終りました。

なお、講演終了後、学生の皆様から、「アニマルセラピーに対する興味が更に深まった」、「学校にセラピー犬がいたら良いのに」、「犬の効果を知り、早く家に帰り愛犬に会いたいと思いました」などの感想や次回以降も実施を希望する声が学生相談室にたくさん寄せられたとのありがたいお言葉をいただきました。

東洋英和女学院大学

【学生相談室ワークショップ】アニマルセラピー講演会を行いました！

●ウェブサイトはこちらをご覧ください。

<https://www.toyoeiwa.ac.jp/daigaku/news/20231220-18752.html>